

広報

2026
1.1
No.1156

はむら

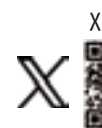
愛情ギュッとず〜っとはむら



市公式サイト



羽やすめ



Facebook



Instagram



YouTube



LINE



特に記載がない場合、市役所の受付時間は土・日曜日、祝日を除く午前8時30分〜午後5時です。

||||||| さまざまなことにチャレンジしているはむらのすごい人を紹介！ |||||

発見！ はむらの すごい人

こんなバンドほかにない！

ケム KEMバンド

大正琴・ケーナ※・ウクレレという異色の組合せで構成されるバンド。メンバー3人の平均年齢は84.3歳。バンド名は3人の名前の頭文字から取った。令和元年から6年間、小作駅周辺で野外ライブを続ける。2年前にハーモニカとタップダンスも加わり、「KEM倶楽部」としても活動の幅を広げている。

※ケーナ…アンデス地方発祥の縦笛



トレードマークの帽子のイニシャルは木製で清水さんの手作り



(左から) 今村 征一さん(88)、清水 喜一さん(86)、秋山 栄造さん(85)、土屋 昌康さん(82) (12月5日に行われた「題名のない認知症カフェ」出演後の皆さん)

「KEMバンド」が、小作台西町内会で産声を上げたのは7年前。町内会行事の後、土屋 昌康さんが「何か楽器を持っていたら音楽でもやらないか」と清水 喜一さんと秋山 栄造さんに提案したのがきっかけでした。最初は難色を示していた清水さんと秋山さん。しかし実は、清水さんは大正琴を習っていたことがあり、秋山さんも、なぜかケーナを持っていた。とりあえず1曲マスターし、秋山さんの奥さんに聞いてもらったところ「一人に聞かせるならもっと練習が必要」と辛口のコメント。でも全否定ではなかったことで、メンバーは俄然やる気に。それぞれ教室に通ったり自主練に励んだりして、技に磨きをかけるようになりました。大正琴の清水さんは彫刻が趣味。プロ級の腕前でしたが、KEMの活

動に夢中になり、彫刻をやめてしまいました。「清水さんの家からはいつも大正琴の音色が聞こえる」と言われるくらい練習熱心です。ケーナの秋山さんは演奏のほかにMCも担当します。「落語家になりたかった」というだけあって、ユーモラスな喋りでお客さんを引き付けます。ウクレレ歴15年の土屋さんはアイデアマン。ライブの演奏曲リストも考えるプロデュサー的存在です。レパトリーが3曲になった時、土屋さんが「人前で演奏したくないか」と次の提案。小作駅前での路上ライブに踏み切りました。「すごく人が集まるかも、と交番に相談したら、交通整理にお巡りさんが2人も来てくれたんだよね」と秋山さんはその時の様子を振り返ります。「だけとお客さんは全然来ない(笑)。警察署や市役所には注意されちゃうし。でもその後、近くの工務店さんが駐車場を貸してくれました」小作駅周辺での野外ライブは6年間も続けました。

令和5年からは月に4回、高齢者施設で演奏会を行っています。施設では、開場30分前から待っている方、サインを求めてくる方もいるそうです。「僕たちにサインとか握手とか、驚きますよ。でも嬉しいもんですね」大広間で大人数のお客さんを前に演奏することも。さすがの秋山さんも「200人くらいお客さんがいたときは足が震えた」そうです。2年前、5人になると補助金ももらえる聞き、新メンバーを募集しました。新メンバーの今村 征一さんは若い頃からハーモニカが好きだった逸材です。もう1人はタップダンスの小倉 勇さん(72)。5人編成の「KEM倶楽部」の誕生です。「何事も続けることが大事ですね。KEMの活動は我々の活力の源。人とのつながりが広がりました」と秋山さん。「このベストは、憧れのアンデス音楽のアーティストからのプレゼントなんです。小作駅前と一緒に演奏もしてくれました」。土屋さんは、KEMのファンの方に医者を紹介してもらって、大病を治療することができたそうです。清水さんも「妻を亡くして落ち込んでいた私が元気になったのも、KEMの活動と支えてくれる人がいたから」と笑顔を見せます。

今ではレパトリーは65曲を超えました。なぜ「音楽」なのか、土屋さんに尋ねたところ「羽村市ではずっと『音楽のあるまちづくり』に取り組んでいますよね」との答え。「この人はこういうところもすごいんだよ」とほかの3人がうなずき合います。

KEMの活動はまだ続きます。「90歳を目指して活動が続けます。『徹子の部屋』に出るのが夢なので、黒柳徹子さんのお知り合いの方がいたら、ぜひ紹介してください！」